Colors, Futu
いろいろって、未来。
川崎市

COLORS, FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th

市立高等学校改革推進計画第２次計画
検証報告書　概要版

川崎市教育委員会事務局

市立高等学校改革推進計画第2次計画について①

本編１頁

背景及び経緯 & 検証の考え方

川崎市立高等学校教育振興計画（H15年5月策定 / 終期設定なし）

- 市立高等学校の今後の目指すべき方向性についての基本的な考え方及び今後の主な取組を定めた計画

市立高等学校改革推進計画（H19年7月策定 / おおむね10年間）

- 上記振興計画に定めた取組を具現化するために策定
- 中高一貫教育校の開校及び既存校の改編等を実施

市立高等学校改革推進計画第２次計画（R2年2月策定 / おおむね10年間）

- 上記振興計画に定めた取組のうち、「市立高等学校改革推進計画」で実施したもの以外を着実に推進するために策定

⇒**R6年度に同計画に位置付けられた各取組の実施状況等を検証**

市立高等学校の課程、学科及びR6年度の定員

学校名	課程	学科	R6年度の定員
川崎高等学校(附属中学校)	全日制	普通科（附属中募集のみ）	120人(3学級)
		生活科学科	40人(1学級)
		福祉科	40人(1学級)
	定時制	普通科（昼間）	140人(4学級)
幸高等学校	全日制	普通科	120人(3学級)
		ビジネス教養科	120人(3学級)
川崎総合科学高等学校	全日制	情報工学科	40人(1学級)
		総合電気科	40人(1学級)
		電子機械科	40人(1学級)
		建設工学科	40人(1学級)
		デザイン科	40人(1学級)
		科学科	40人(1学級)
	定時制	クリエイト工学科（夜間）	35人(1学級)
		商業科（夜間）	35人(1学級)
橘高等学校	全日制	普通科	200人(5学級)
		スポーツ科	40人(1学級)
		国際科	40人(1学級)
	定時制	普通科（夜間）	70人(2学級)
高津高等学校	全日制	普通科	280人(7学級)
	定時制	普通科（夜間）	70人(2学級)

検証結果を4つの区分に分類

達成	第２次計画に位置付けられた取組を実施し、目的を達成したことから、終了するもの
達成→取組継続	第2次計画に位置付けられた取組を実施し、目的を達成したが、今後も充実を図りながら、継続して取り組むことが望ましいもの
更なる取組が必要	第２次計画に位置付けられた取組を実施し、目的を達成したが、新たな課題等があることから、更なる取組が必要であるもの
未達成→継続	第２次計画に位置付けられた取組を実施できず、今後も引き続き取り組む必要があるもの

計画体系図

H15～終期設定なし

川崎市立高等学校教育振興計画

① 生徒の可能性を伸ばすための教育内容や教育方法の充実
② 開かれた高等学校づくりの推進
③ 新しい視点による学校・学科・学系の創造
④ 入学者選抜方法及び通学区域（学区）などの検討
⑤ 生徒の意欲的な活動を支援する条件づくり

取組④を実施
- 市内2学区→1学区に変更
- 転入学の弾力化
- ２学期制の導入　　等

③の具体化 →

H19～おおむね10年

市立高等学校改革推進計画

- 中高一貫教育校の開校
- 商業高等学校全日制の改編、定時制普通科の募集停止、商業科を川崎総合科学高等学校に移管→幸高等学校に改称
- 川崎高等学校定時制昼間部の新設
- 川崎総合科学及び橘高等学校定時制の改編

①②⑤の着実な推進 →

R2～おおむね10年

市立高等学校改革推進計画第２次計画

R6年度に検証

市立高等学校改革推進計画第2次計画について②

各項目における取組内容

本編３頁

全日制課程普通科

- 普通科志向に対応しつつ、生徒一人ひとりの資質・能力を伸ばすため、教科横断的な教育課程やキャリア教育等に取り組む。
- 特色ある中高一貫教育を目指した中高６年間の体系的・継続的な学びの充実に取り組む。

項目		取組内容
魅力ある普通科教育の推進	カリキュラム・マネジメント	●**横断的な視点による教育課程の編成**と実施、評価、改善を進めるカリキュラム・マネジメントの充実 ●各教科等の指導計画や授業改善、指導力向上等の**教職員研修の実施**
	キャリア教育	●**総合的な探究の時間**の充実 ●**キャリアに直結する学校設定科目**における体験的・課題解決的な授業の実施 ●**インターンシップ**を積極的に実施
	ICT環境の整備	●**無線LAN**等の整備（橘、高津） ●ネットワークを活用した学校間の連携 ●ICT環境を活用した**個に応じた教育**等
	中学生の普通科志向	●幸高等学校**普通科を２→３学級募集に変更**
中高一貫教育校の充実	グローバルコミュニケーション力	●教科、行事、特別活動を活用したグローバルコミュニケーション力の向上 ●**海外研修**の改善
	総合的な探究の時間	●**外部の知見を活用した取組**の実施 ●ICT機器の効果的な使用
	特色ある中高一貫教育	●学習会や学び合い等の取組の改善・充実 ●**学習指導要領等によらない特別の教育課程の編成** ●**高等学校普通科の募集停止**

全日制課程専門学科

- 専門学科離れに対応しつつ、生徒の進路実現を目指し、社会や産業の変化等の状況に応じた専門教育と情報発信に取り組む。

項目		取組内容
進路実現を目指した専門教育	専門教育	●時代の変化やニーズに対応した**科目構成や内容の検討・改善** ●**インターンシップ**の実施・改善
	専門学科離れ	●幸高等学校**ビジネス教養科を４→３学級募集に変更**
特色ある専門学科の情報発信	情報発信	●各校において説明会等を実施 ●専門学科の**合同発表会の開催**

定時制課程

- 社会状況の変化等に合わせた学級編成、複雑多様な課題を抱える生徒への自立支援や個に応じた学びの充実に取り組む。

項目		取組内容
定時制生徒自立支援の充実	自立支援	●定時制生徒自立支援事業において**キャリアサポートや学習サポート**を充実 ●定時制生徒自立支援事業を**橘高等学校、川崎総合科学高等学校で開始**
定時制における学びの充実	学びの充実	●始業前や放課後の**個別学習支援**等の実施 ●**日本語指導の必要な生徒に対する支援体制**の充実
	学級編成	●高津高等学校定時制課程を**３→２学級募集に変更** ●川崎高等学校定時制課程**昼間部を２→４学級募集に変更、夜間部の募集停止**

取組の実施状況①

全日制課程普通科

本編５頁

魅力ある普通科教育の推進

カリキュラム・マネジメント

- 教科等横断的な教育課程の一部実施（R4年度 幸、高津）
- 「総合的な探究の時間」を活用し、地域や学校の実態に応じた教育課程（カリキュラム）の編成
- 組織的・計画的な評価＆改善（マネジメント）は未実施

更なる取組が必要

より生徒の思考力・判断力・表現力や主体性等の育成が必要

⇒**全校での教科等横断的な教育課程の編成及び組織的なカリキュラム・マネジメントの仕組みづくりを検討**

キャリア教育

達成→取組継続

- キャリアに関する学校設定教科・科目の設置（高津）
- インターンシップの実施（幸、高津）

ICT環境の整備

達成→取組継続

- 無線LAN導入（全校 ※川崎は竣工時H26）
- ICTを活用し、個別学習支援等を実施（川崎、幸、橘、高津）

中学生の普通科志向

達成

- 幸高等学校普通科を**2→3学級募集に変更**（R3年度）

かわさきプラスチック循環プロジェクト（橘高等学校）

大学入学者選抜ごとの入学者数の割合（全国）

入学者選抜実施年度		R２	R３	R４	R５	R6
国立	一般選抜	83.0%	82.1%	82.1%	81.4%	81.1%
	学校推薦型選抜	12.4%	11.9%	11.7%	12.3%	12.4%
	総合型選抜	4.2%	5.5%	5.6%	5.9%	6.1%
公立	一般選抜	71.0%	69.7%	69.8%	69.3%	69.1%
	学校推薦型選抜	25.3%	25.8%	25.8%	26.0%	26.0%
	総合型選抜	3.3%	3.8%	3.8%	4.1%	4.5%
私立	一般選抜	43.3%	41.5%	41.1%	39.7%	39.0%
	学校推薦型選抜	44.4%	41.5%	41.7%	41.4%	40.3%
	総合型選抜	12.1%	14.7%	15.7%	17.3%	19.0%
合計	一般選抜	50.9%	49.5%	49.0%	47.9%	47.5%
	学校推薦型選抜	38.4%	36.0%	36.2%	35.9%	35.0%
	総合型選抜	10.4%	12.7%	13.5%	14.8%	16.1%

保育園でのインターンシップ

ICTを活用した個別学習支援

取組の実施状況②

全日制課程普通科

本編12頁

中高一貫教育校の充実

グローバルコミュニケーション力

- 「高校生スクールビジットプログラム」や「ホストファミリープログラム」など、**異文化交流の実施**（R5年度）
- オーストラリアへの**海外研修**（高１希望者）の内容改善（R5年度）

更なる取組が必要

国際社会で活躍するには、より多くの経験の場が必要

⇒**教育活動の充実や、中高一貫教育校の強みを生かした教育課程の編成など、向上を図る取組を検討**

総合的な探究の時間

達成→取組継続

- 大学、市役所、地元の企業等と連携した取組を実施

特色ある中高一貫教育

- 「学習指導要領等によらない特別の教育課程※」の**編成は未実施**
  ※高等学校での指導内容の一部を中学校に移行することが可能になるなど、教育課程の特例措置
- 高等学校**普通科の募集停止**（R2年度）

未達成→継続

中高６年間を通した体系的・継続的な学びが必要

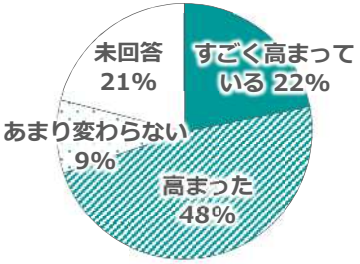
⇒**開校から10年間を振り返り、更なる魅力化・特色化に向け、教育課程の編成や教育指導体制の整備も含めた取組を検討**

オーストラリアへの海外研修

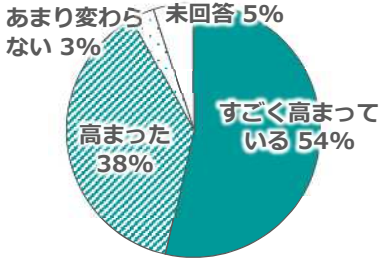
Stanford e-Kawasaki

海外研修参加生徒へのアンケート結果（R5年度）

Q.コミュニケーション力が高まったか。



Q.外国語や異文化、世界に関する関心は高まったか。



その他自由意見

- 海外の良さに気づいた 海外大学を視野に入れたい。
- 今回の研修は本当に貴重な経験で、自分が大学生とか大人になったらもう一度オーストラリアに行きたい。
- 大学生や大人になったら、もっと英語を勉強して、もう一度留学してみたいなと思いました。

市役所等と連携した総合的な探究の時間

取組の実施状況③

全日制課程専門学科

本編20頁

進路実現を目指した専門教育

専門教育 達成→取組継続

- インターンシップの実施（川崎、幸、川崎総合科学）
- 大学進学や就職等の多様な進路選択が可能となる選択科目に変更

専門学科離れ

- 幸高等学校ビジネス教養科を**4→3学級募集に変更**（R3年度）

更なる取組が必要

その他の高等学校においても、定員割れ傾向が続く専門学科あり。
⇒**市立高等学校全体で専門学科離れへの対応策を検討**

板金加工工場でのインターンシップ

鋳造工場でのインターンシップ

全日制課程専門学科における入学者選抜の競争率の推移

学校名	学科	入学年度					
		R1	R2	R3	R4	R5	R6
川崎	生活科学科	1.13	**0.97**	1.18	**0.79**	**0.90**	1.10
	福祉科	**0.90**	1.21	**0.62**	1.00	**0.79**	**0.85**
幸	ビジネス教養科	**0.86**	1.20	1.10	1.10	1.10	1.18
川崎総合科学	情報工学科	1.41	1.21	1.64	1.13	1.49	1.46
	総合電気科	1.08	**0.85**	1.03	**0.90**	1.00	**0.90**
	電子機械科	1.54	**0.82**	1.18	**0.82**	1.26	**0.77**
	建設工学科	1.31	1.00	1.05	**0.87**	1.05	1.13
	デザイン科	1.56	1.05	1.38	1.21	1.21	1.15
	科学科	**0.97**	1.41	1.51	1.08	1.33	1.05
橘	スポーツ科	1.28	1.54	1.23	1.15	1.15	1.44
	国際科	1.21	1.74	1.36	1.05	1.44	1.62

特色ある専門学科の情報発信

情報発信 達成→取組継続

- 各学科の紹介動画を生徒主体で作成し、YouTube配信や中学生向け説明会で活用

R6年度動画

生徒作成ポスター

取組の実施状況④

定時制課程

本編27頁

定時制生徒自立支援の充実

自立支援 達成→取組継続

- アルバイト体験等、キャリアサポートの充実（川崎）
- 定時制生徒自立支援事業の全校実施（R2年度 橘、R4年度 川崎総合科学）

定時制における学びの充実

学びの充実

- 授業開始前の個別学習支援の充実（R6年度 橘）
- 日本語学習コースの設置（R5年度 川崎）

更なる取組が必要

定時制課程には支援が必要な生徒が多数在籍

⇒**一人ひとりに応じたきめ細やかな学習支援等を検討**

学級編成

- 高津高等学校定時制課程を**3→2学級募集に変更**（R3年度）
- 川崎高等学校**昼間部を2→4学級募集に変更、夜間部の募集停止**（R3年度）

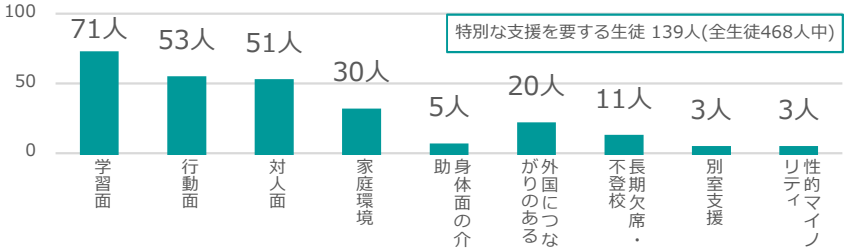
更なる取組が必要

昼間部は高いが、夜間部は充足率の低い状況が継続

⇒**社会状況の変化や教育ニーズに合わせた課程編成を検討**

特別な支援を要する定時制課程生徒への支援内容（R５年度）

※支援教育コーディネーターへの聞き取りにより作成、延べ人数



定時制課程における定員に対する充足率（各年度５月1日時点）

学校名	学科	充足率　※下段 入学者/定員				
		R2	R3	R4	R5	R6
川崎	普通科（昼）	**83%** 58/70	**49%** 68/140	**44%** 61/140	**64%** 85/132	**59%** 78/132
	普通科（昼）在県外国人	–	–	–	**63%** 5/8	**25%** 2/8
	普通科（夜）	**27%** 19/70	–	–	–	–
川崎総合科学	クリエイト工学科（夜）	**31%** 11/35	**46%** 16/35	**29%** 10/35	**26%** 9/35	**29%** 10/35
	商業科（夜）	**11%** 4/35	**9%** 3/35	**11%** 4/35	**6%** 2/35	**11%** 4/35
橘	普通科（夜）	**40%** 28/70	**51%** 36/70	**34%** 24/70	**37%** 26/70	**39%** 27/70
高津	普通科（夜）	**30%** 31/105	**34%** 24/70	**40%** 28/70	**29%** 20/70	**51%** 36/70

検証結果

第２次計画の検証結果まとめ

本編35頁

取組内容		検証結果	
魅力ある普通科教育の推進	カリキュラム・マネジメント	**更なる取組が必要**	→①
	キャリア教育	達成→取組継続	
	ICT環境の整備	達成→取組継続	
	中学生の普通科志向	達成	
中高一貫教育校の充実	グローバルコミュニケーション力	**更なる取組が必要**	
	総合的な探究の時間	達成→取組継続	→②
	特色ある中高一貫教育	**未達成→継続**	

取組内容		検証結果	
進路実現を目指した専門教育	専門教育	達成→取組継続	
	専門学科離れ	**更なる取組が必要**	→③
特色ある専門学科の情報発信	情報発信	達成→取組継続	
定時制生徒自立支援の充実	自立支援	達成→取組継続	
定時制における学びの充実	学びの充実	**更なる取組が必要**	
	学級編成	**更なる取組が必要**	→④

今後取り組むべき４つの課題

- **①教科等横断的な学びの強化の必要性**
- **②中高一貫教育の見直しの必要性**
- **③専門学科の定員割れへの対応の必要性**
- **④教育ニーズに合わせた定時制課程の在り方検討の必要性**

第２次計画策定以降に顕在化した課題

社会状況の変化等に伴い、次の顕在化した事象への対応の検討が必要

少子化の進行

- R20年度の県内中学校卒業者がR5年度と比較して約３割減（図１）

市外流出の増加及び通信制課程進学者の増加

- 進路希望先として、市外流出の増加（図２ 市外 H16 9.4% → R5 18.5%）
- 通信制課程への進学希望者増加（図２ H16 0.7% → R5 4.3%）

高津高等学校校舎の目標耐用年数経過

- R19年度には高津高等学校校舎の目標耐用年数80年経過

図１ 神奈川県内の中学校卒業者の動向

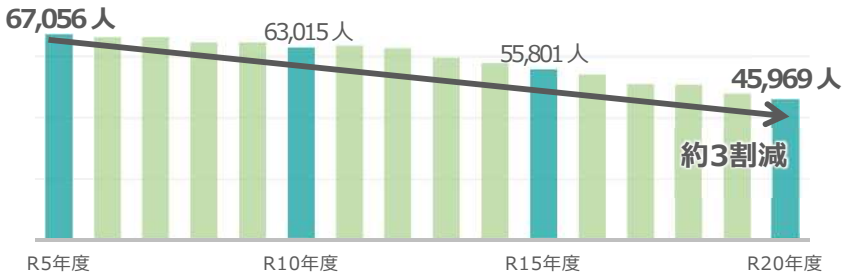


図２ 市立中学校卒業予定者の進路希望状況の推移（構成比）

卒業予定年度			H16	R2	R3	R4	R5
市立中学校卒業予定者数			8,133人	9,624人	9,908人	10,214人	9,929人
高等学校等進学希望	全日制課程	**川崎市立**	**20.5%**	**16.3%**	**14.7%**	**16.0%**	**17.0%**
		市内県立	**41.4%**	**37.1%**	**38.7%**	**35.7%**	**36.0%**
		市外(県外)国公立	**9.4%**	**18.4%**	**18.7%**	**18.2%**	**18.5%**
		私立	18.1%	17.6%	17.8%	19.1%	17.6%
	定時制課程		1.2%	0.9%	1.0%	1.0%	1.1%
	通信制課程		**0.7%**	**3.5%**	**3.8%**	**4.0%**	**4.3%**
その他			8.7%	6.2%	5.3%	6.0%	5.5%

検証結果

今後の検討の方向性 & スケジュール

本編41頁

検証結果から→ 4 つの課題	計画策定以降に顕在化した課題
① 教科等横断的な学びの強化の必要性 ② 中高一貫教育の見直しの必要性 ③ 専門学科の定員割れへの対応の必要性 ④ 教育ニーズに合わせた定時制課程の在り方検討の必要性	A) 少子化の進行 B) 市外流出増加及び通信制課程進学者の増加 C) 高津高等学校校舎の目標耐用年数経過

①&② ③&④&A&B C の3つに集約化

今後検討すべき 3 つの方向性

- **"選ばれる"高等学校づくりと少子化に伴う定員減への対応**
  - 専門学科の定員割れ傾向、進路希望先として市外流出増加
  - R20年度の県内中学校卒業者がR5年度と比較して約３割減

→ **検討の方向性 1**
魅力化・特色化に取り組み、生徒から"選ばれる"高等学校づくり

- **学びを"選べる"高等学校づくりと定員割れへの対応**
  - 定時制課程への進学者減、通信制課程への進学者増
  - 国の計画や「市立高等学校改革推進計画」で見送られていた将来的な検討課題も含めた検討

→ **検討の方向性 2**
多様な学び方から、生徒が学びを"選べる"高等学校づくり

- **校舎の目標耐用年数経過への対応**
  - R19年度には高津高等学校校舎の目標耐用年数80年経過

→ **検討の方向性 3**
適正な配置及び規模の検討
併せて、目標耐用年数経過への対応検討

今後の取組 「（仮称）新たな市立高等学校等改革構想 」策定予定